

JSA 神奈川支部通信

No. 2 February 2023 日本科学者会議神奈川支部 発行

事務局長：☎230-0071 横浜市鶴見区駒岡 3-30-G-408 飯岡ひろし

HP：<https://jsa-kanagawa.jp>、携帯電話 080-1987-0994、E-mail：iioka408(at)gmail.com

年会費 10800 円、院生・読者 5400 円 ゆうちょ銀行振替口座 0280-1-12774 日本科学者会議 神奈川支部

この号の目次

- | | |
|---|-------------------|
| ◆ JSA 神奈川支部研究交流会のお知らせ | JSA 神奈川支部幹事会 |
| ◆ 2. 11 「建国記念の日」に反対する神奈川県民のつどい | 2. 11 県民のつどい実行委員会 |
| ◆ JSA24 回総学 in 大阪に参加して(2) | 支部事務局長 飯岡ひろし |
| ◆ 九条科学者の会 2022 年 12 月講演会「立憲主義の破壊と再生」の報告 | 後藤仁敏 |
| ◆ 年始めの関心事：「ブラックホールの蒸発」と「抑止とその限界」 | 神奈川民間懇 北山宏之 |
| ◆ 追悼：本間 慎先生を偲ぶ | フェリス学院大学 佐藤 輝 |
| ◆ 第 2 回関東甲信越地区会議（2022/12/22）：中野貞彦氏の報告から | 支部事務局長 飯岡ひろし |
| ◆ 資料：研究者・非常勤講師の大量雇い止め回避のための会議 | 飯岡ひろし |
| ◆ 第 53 期第 3 回幹事会の報告 | JSA 総務財政部長 増澤誠一 |

JSA 神奈川支部研究交流会のお知らせ

JSA 神奈川支部幹事会

新春恒例の支部研究交流会は、かながわ総研の移転のため 2 月 18 日（土）14 時から 17 時まで、以下のように JR 石川町駅徒歩 3 分のかながわ労働プラザ（L プラザ）で開催します。液晶プロジェクターとスクリーンを用意します。

なお、当日 13 時から、移転した新しいかながわ総研事務所にて「日本の科学者」と「支部通信」の 3 月号の発送作業と支部幹事会を行います。よろしければこちらにもご参加ください。

JSA 神奈川支部 2023 年研究交流会

日時：2023 年 2 月 18 日（土）14:00～17:00

終了後、有志で新年会の予定

会場：かながわ労働プラザ（4F・11 号会議室）

横浜市中区寿町 1-4、045-633-5413

交通：JR 石川駅中華街口（北口）徒歩 3 分、地下鉄伊

勢佐木長者町駅出口 2 徒歩 12 分

講演 萩原伸次郎「危機に立つ日本経済－日米関係から読み解く」 50 分

話題提供 鈴木秀顕「持続可能な教育を考えたもったいない」 20 分

塩川祥子「静岡大学工学部初の女性教員になって」 20 分

飯岡ひろし「かながわの水道と持続可能性」 20 分

後藤仁敏「山中市政の 1 年半と 4 月の横浜市議選の課題」 20 分

連絡先：飯岡ひろし（携帯：090-1557-9941、iioka408(at)gmail.com）

かながわ総研の新しい事務所：〒231-0032 横浜市中区不老町 1-6-9 第一 HB ビル 5 階 B

電話：045-662-9839 現在の不二ビルの交差点をはさんだ対面のビルの 5 階です。

JR 関内駅南口から徒歩 3 分、かながわ労働プラザまで徒歩 5 分程度です。



「建国記念の日」に反対する 2.11 神奈川県民のつどい

2.11 県民のつどい実行委員会

JSA 神奈川支部も構成団体に参加している毎年恒例の 2.11 県民のつどいが、下記の要領で開催されます。今年は「憲法と教育の今日的課題～人権・平和・民主主義の守り手は」について元文部科学省事務次官の前川喜平さんが講演します。多くの皆さんの参加を呼びかけます。

テーマ：憲法と教育の今日的課題～人権・平和・民主主義の守り手は

日時：2023 年 2 月 11 日（土）13 時 30 分開会 受付 12 時 30 分～

12：50 頃から DVD 上映あり

会場：かながわ県民センター2 階ホール（横浜駅西口下車 徒歩 5 分）

講師：前川喜平（元文部科学省事務次官）

資料代：500 円（高校生以下は無料）

事前申し込み不要、先着順、定員 260 人 オンライン配信なし

※感染防止のため、当日はマスク着用・検温・手指消毒にご協力ください。

※コロナ感染防止で会場が使用不可になった場合、「つどい」は中止します。

講師プロフィール：前川喜平（まえかわ・きへい）さん

1955 年、奈良県生まれ。1979 年、東京大学法学部卒業。文部省入省。宮城県教育庁行政課長、初等中等局長などを経て、2016 文部科学事務次官、2017 年退官。現在、現代教育行政研究会代表。福島県と厚木市で自主夜間中学のスタッフも務める。著書に「面従腹背」「権力は腐敗する」（いずれも毎日新聞社出版）など。

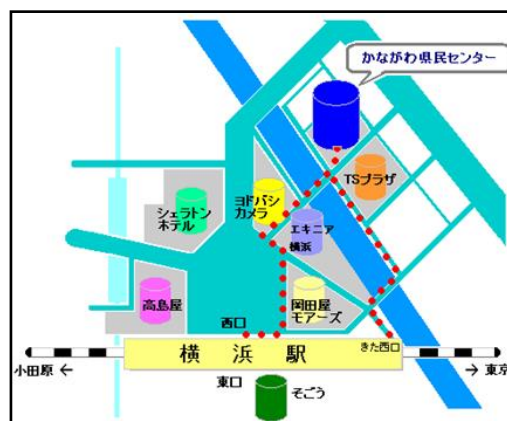
主催：2.11 神奈川県民のつどい実行委員会

連絡先：神奈川労連（担当・住谷） 045-212-5855

当日の連絡先：神奈川労連（担当・住谷） 080-6709-4147

実行委員会構成団体：日基督教団神奈川教区靖国天皇制問題委員

会、日本キリスト教会横浜長老教会靖国神社問題委員会、在日大韓基督教会横浜教会、神奈川県教育運動連絡センター、神奈川私学教職員組合連合、横浜市立高等学校教職員組合、神奈川県立障害児学校教職員組合、神奈川県教職員連絡協議会、神奈川、高校教職員連絡会、横浜教職員の会、川崎市教職員連絡会、日本科学者会議神奈川支部、神奈川労連、神奈川自治労連、自由法曹団神奈川支部、青法協神奈川支部、神奈川県歴史教育者協議会、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟神奈川県本部、アジア・フォーラム横浜、県民連絡会、教科書・市民フォーラム、神奈川平和遺族会



ヒトのみではなく動物を含めたコロナウイルスの流行理解

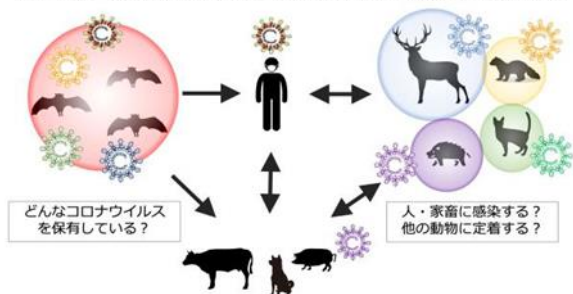


図2. One Healthの考えに基づく未来のコロナウイルス対策

ける生態系を一体としてとらえるもので、コロナパンデミックが中国のコウモリから人に伝搬したことが、はじめといわれるように、人間の開発行為によって、手つかずの自然に人間が接触し、飛行機などであつという間に都市に運ばれるという現代、人類の持続可能性にとって重要な概念になりつつあります。ワンヘルスは『日本の科学者』の2021年11月号、『感染症大流行時代の人と動物の関係』でも特集が組まれています。また、NHKの国際共同制作『次のパンデミックを防げ! ウイルスハンターたちの闘い』で放映されました。

中川氏は「新型コロナウイルスは40種以上の動物のACE2が、新型コロナウイルスの感染を許容させることが分かっています。様々な動物に由来する培養細胞が新型コロナウイルスに感染する可能性が示され」人間と動物相互の感染が出現する可能性は高いため、もはや人の健康を重視するだけでは、パンデミックを収めることはできないことを明らかにしています。「コロナウイルスを通じて我々は学んでいくべきだと思います。こうしたOne Healthの概念に基づいた健康対策や研究が、今後出現する可能性のある未知のコロナウイルスを含めた様々な感染症対策に貢献するのだと」と結びました。

(以下、次号)

九条科学者の会 2022年12月講演会「立憲主義国家の破壊と再生」の報告

後藤仁敏

2022年12月18日(土) 午後に、九条科学者の会 2022年12月講演会が「立憲主義国家の破壊と再生ーウクライナ侵略と安倍国葬を手がかりに」をテーマにオンラインで開催され、約51名の方々が参加しました。

最初に、九条科学者の会事務局長の永山茂樹さんが「ロシアのウクライナ侵略戦争を奇貨とした9条改憲、安倍元首相銃殺を奇貨とした安倍国葬で、日本の立憲主義は破壊されようとしています。奥野さんと宮間さんの講演でその破壊の実態を学び、再生への道を探りたいと思います」と挨拶しました。

講演1では、龍谷大学政策学部教授の奥野恒久さんが「日本国憲法平和主義の今日的意義」と題して、次のように講演しました。ロシアのウクライナ侵略戦争は、いったん戦争を始めると終わらせることが極めて難しいことを明らかにし、どんなことがあっても戦争は回避しなければならないことを思い知らされた。

自民党はウクライナ戦争以前から抑止力の強化など軍拡をめざしていた。2020年12月にはスタンダード・オブ防衛能力の保有を閣議決定し、2021年の衆院選の公約でも防衛力の抜本的強化を掲げ、安倍元首相は2022年1月にも「打撃力の強化に予算の重点を置くべき」と述べていた。敵基地攻撃能力はウクライナ戦争とは無関係に、2020年6月のイージス・アショアの破綻直後に登場している。

2022年参議院選挙では改憲4党が93議席を獲得し、非改選と合わせて改憲発議に必要な3分の2(166議席)以上をとり、すでに3分の2以上を占めた衆議院をふまえて、岸田首相は「できるだけ早く発議に至る取り組みを進めていく」と述べた。軍拡は当然で、財源が増税か国債かを議論している。そして、12月16日、国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画の安保3文書が閣議決定された。

報告者は、日本の軍事国家化は、2013年の国家安全保障戦略で安倍政権が「積極的平和主義」を掲げて以来進みだしたもので、岸田政権はウクライナ戦争、安全保障環境の厳しさを口実にアクセルを踏んだにすぎない。今の軍拡論には憲法論「立憲主義の破壊」が欠如している。

憲法9条は、戦前・戦中の軍事優先の社会から個人の尊重を価値とする社会に転換した。これは「鎌倉時代以後800年にわたる武家や軍人に依存した社会から、70年もの間、軍事的なものの毒を政治社会から継続的に遠ざけた歴史的な大事業であった」(石川健治, 2019)。

憲法9条のもとでの自衛隊は、戦力ではなく、自衛のための必要最小限度の実力(自衛力9とされ、装備や実力行使には厳しい制限が付けられ、海外出動や集団的自衛権は許されず、防衛費は1%枠とされ、専守防衛に徹し、軍事大国にはならないとされてきた。

ところが、2013年の国家安全保障戦略では「積極的平和主義」が進められ、2014年の閣議決定では、集団的自衛権の行使を容認し、2015年には安保関連法が強行され、2021年には重要土地調査規制法が成立し、2022年には防衛予算のGDP比2%以上を念頭に防衛費の大幅増額、反撃能力の保有を進め、防衛産業の利益と自衛隊員の確保に努め、12月に閣議決定された新しい国家安全保障戦略ではインド・太平洋地域の安全保障と経済秩序を守るために日米の軍事協力をさらに進めるとした。軍事国家に向けてさらに進むために、憲法に自衛隊を明記するという9条改憲が策動されている。

日本国憲法前文は、自国民・他国民を問わず生命と尊厳が守られなければならないとしており、「非戦、核廃絶、軍縮」の道を示している。敵基地攻撃能力をもつことは、集団的自衛権を行使し、アメリカの代理として日本が攻撃する現実的可能性をもたらす危険がある。国民に「国を守る当事者意識をもて」という日本社会にしていけるのか。「台湾問題」には日本は軍事的に関与しないとアメリカにも中国にも言える政府をつくろう。

講演2では、中央大学文学部教授の宮間純一さんが「歴史のなかの『安倍国葬』問題」について、以下のように話しました。日本近現代史の文脈から「安倍国葬」問題を考えたい。大久保利謙著『国史大辞典』では、国葬には①天皇およびその一家の争議で、国制上当然行うもの、②国家に偉勲ある者に対し特旨により行うものがあつた。後者は天皇・国家の「功臣」の顕彰、「勤王」が物差しであつた。国民統合のために働いた天皇制を支える国家儀式であるとともに、天皇・国家の「功臣」を称賛する場である。

明治初期から天皇・政府による個人の死への介入が始まり、1878年の大久保利通の暗殺には、伊藤博文らがフランスの制度などを調べて国内の反乱分子を抑えるために准国葬として行われた。1883年の岩倉具視の国葬は、太政官のもとにおかれた葬儀御用掛が事務を担い、国費によ

り経費が支出された最初の国葬となった。1891年の三条実美の国葬は、天皇の特旨で実施され、閣議決定→上奏→裁可→勅令公布の形が確立された完成された国葬となった。

1926年に国葬令が帝室制度調査局で検討され、皇室喪儀令とともに公布された。これは「異常ナル特典」で、帝国議会の協賛を経て勅書を発するとされた。1922年の山県有朋の国葬は、大正デモクラシーの影響で民衆の人氣がなく盛り上がらない国葬となった。1909年の暗殺された伊藤博文の国葬は、お祭り騒ぎのなか、警官のご厄介になったものが数万人に及んだ熱狂をとまなうものであった。暗殺という非業の死を利用して韓国の植民地化を進めようとしたものでもあった。

1934年の東郷平八郎の国葬は、日清・日露戦争の英雄として「国家の守護神、忠君愛国、義勇奉公の守護神」としてまつられ、国民教化の霊として東郷神社も建設された。

1943年の山本五十六の国葬は、戦争のために利用された。東条英機首相は「一億国民の進むべき道はただ一つであり、山本の精神を継承して「米英撃滅」に邁進しなければならない」と国民に訴えた。

国葬令は1947年に失効し、戦後は国葬の制度は大きな政治問題になるとされ、実現しなかった。1967年の吉田茂の国葬は、閣議決定で実行された。根回しによって共産党以外の野党は賛成しないが反対もしなかった。6500人が参列し、沿道には7.5万人が参集したが、法的根拠はなく、共産党や市民団体が反対運動をした。

その後、1975年に佐藤栄作元首相が死去した際も内閣・自民党・国民有志による国民葬となった。1980年の大平正芳首相、2020年の中曽根康弘元首相の際は、国民葬も難しいと判断し、内閣と自民党との合同葬となった。

今回の「安倍国葬」は過去の経緯を無視して決定した。戦後は国葬を行なおうとするなら主体は国民でなければならず、特定の人間を国家をあげて特別視する理由はなく、国葬は必要ない。米国は歴代大統領を国葬にしているが、「大統領図書館」を設置して資料を保存・公開している。日本では安倍氏と統一協会の関係も同氏の死去を口実に調査を拒んでおり、大きな違いがある。

最後に、九条科学者の会共同代表の志田陽子さんが、「国会で議論もなく国葬を決定することは許されない。また、国会閉会後に安保3文書を閣議決定することも許されない。九条科学者の会はさらに憲法9条を守るために活動して行きたい」と挨拶しました。また、永山事務局長は、本会として3文書へのメッセージを近く発表したい。来年もこのような講演会を開催したいと述べました。

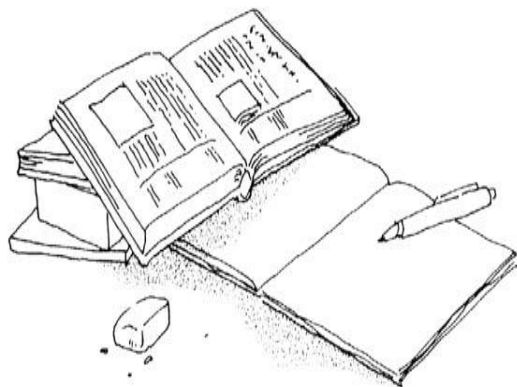
年始めの関心事：「ブラックホールの蒸発」と「抑止とその限界」

神奈川民間懇 北山宏之

新年を、定年後10年目、70代に突入して迎えた。

ブラックホールと重力波の発見によって実証された一般相対性理論と、量子コンピュータにその原理が応用され始めた量子力学。1970年代の学生時代から大きく発展した物理学のこれら2つの理論を結びつけると、何もかも吸い込んでしまうはずのブラックホールが素粒子を放出して蒸発してしまうという、驚くべき結果が導かれている。何でそうなるのか腑に落ちるとこ

ろまで理解することをめざして、楽しみながら苦闘中。



神奈川 16 区市民連合では、昨年暮れに立憲民主党の後藤祐一衆院議員と ZOOM 懇談会を行った。私の、戦争回避と外交こそ安全保障の前提にすべきとの質問に対して、それはもちろんだが、交渉が失敗して、例えば中国が攻撃してきたときに中国に届くミサイルが必要だ。ここまで想定して対応しますと言って、責任ある政権だ、との回答であった。

参加した他の参加者からは「自公の進める敵基地攻撃について周辺国の環境が悪いからやむを得ないの認識であり、政治家として、紛争を戦争にしない外交で解決するんだと言う信念は見られない。市民連合は野党の共闘のあり方を、基本政策、共闘の意思を貫く、共闘する政党・団体の信頼醸成をしっかりと作り上げていかないと国民の信頼、拡がりには得られないと、懇談を通し思いました」との感想が寄せられた。

立憲民主党の基本政策を調べてみた。安全保障関連部分のタイトルは「国際協調と専守防衛を貫き、現実的な安全保障や外交政策を推進します」だが、詳細を見ていくと、

- ・力による現状変更の試みに毅然と対処します。
- ・抑止力を維持しつつ、米軍基地の負担軽減や日米地位協定の改定を進めます。

とあった。

特に抑止力についてどう理解すべきなのか、どう考え方が違うのか深い議論が必要ではないかと感じた。

世界 7 月号 p 76 「抑止とその限界」藤原帰一（国際政治学）を何回も熟読した。

ウクライナ戦争は、核を含む抑止力が破れたことによる結果なのに、日本ではなぜか、抑止力を強めるべきだ、しかも中国に対して、という奇妙な光景になっている。

抑止戦略とは何か、抑止には限界があり、すべての戦争を抑止することはできない、なぜ抑止は破れたのか、などをめぐってそのエッセンスを以下にまとめてみた。

今回の戦争では核抑止は破れなかった。核抑止は核兵器実戦使用の恐怖が支える均衡にほかならない。問題は、核兵器によって通常兵器を用いた軍事行動を抑止することができるのかという点だ。もし核抑止が十分に安定し、核保有国がお互いに核兵器を用いて戦うことが困難になったと言える状況が生まれたならば、相手が核を使用する可能性を恐れることなく通常兵器による軍事的な侵略に訴えてしまう危険が生まれる。

核抑止の安定が通常兵器による力の均衡を不安定にしてしまうという、安定・不安定パラドックスと呼ばれる状況である。ウクライナ侵攻後、ロシアの指導者は、ロシアは核による反撃

を辞さないという、核恐喝の発言を行なった。自国の核兵器を盾に使って相手の核攻撃を阻み、NATO の直接介入も阻止するという戦略をここに見ることができ、安定・不安定パラドックスを戦争の手段として使っているといっている。

結局、通常兵器による抑止は核抑止よりも信頼性が低く、核抑止が保たれていたとしてもそれだけでは戦争を阻止できなかったことは、決して驚くべき結果ではない。

結論として、今必要なのは、抑止への依存ではなく抑止の限界を見据えることであって、抑止の破綻を前に中国への抑止力強化を求めることに意味はない、としている。

中国が本当に攻めてくる？ 戦争回避こそ安全保障政策の核心だと思うが、軍事だけでなく、経済、政治、外交などの面からも、まさに天下国家を大いに大いに論じるべき時期だと痛感している。

追悼：本間 慎先生を偲ぶ

フェリス女学院大学 佐藤 輝

2022 年 12 月 11 日に本間先生（東京農工大学名誉教授、フェリス女学院大学名誉教授）がご逝去なさいました。92 歳のお誕生日を目前に控えた、突然の訃報でした。

本間先生は、1931 年、新潟県佐渡市羽茂本郷でお生まれになり、1954 年に東京農工大学農学部養蚕学科をご卒業されました。同大学で継続的に文部技官、助手としてご勤務なさった後、1970 年に助教授、1978 年には教授に昇任され、蚕糸生物学科および環境・資源学科の研究教育に長年ご尽力されました。とくに日本蚕糸学会の評議員および理事、日本分析学会常議員、日本環境学会の事務局長および会長を歴任され、さらに第 14 期から第 16 期まで日本学術会議会員ならびに自然保護研究連絡委員会委員長を勤められました。

1960 年代、まだ日本ではほとんど知られていなかった桑樹への農薬（除草剤）の毒性に関する一連のご研究（東京大学で農学博士号を取得）、そして 1970 年代、1980 年代に日本各地の重金属類（特にカドミウム、亜鉛、鉛、銅）の土壤汚染調査を積極的にご先導なさったことは、日本の環境毒性学の基礎を築く多大な功績でした（高度経済成長期を背景に、当時はこれらのご研究に対して社会的な制約が多々あったそうです）。環境汚染の被害者の立場に寄り添い、裁判等では幾度となく科学者として証言に立ったと語っておられました。

農工大のご退官後、1995 年に横浜のフェリス女学院大学に教授としてご着任なされ、国際交流学部長、同大学長を歴任されました。本間先生のご注力のおかげで、大学内にはビオトープや再生可能エネルギー設備等が設置されたり、のちにノーベル物理学賞を受賞なさる真鍋淑郎先生を本学主催の環境シンポジウムにお招きしたりして、環境教育の実践に並々ならぬ情熱を燃やされました（これらに関して、筆者は 2003 年から一緒にエコキャンパス化プロジェクトに参画いたしました）。本間先生の学長任期中の 4 年間には、大学界で注目されていた文部科学



省 GP (Good Practice) 補助事業において、エコキャンパス活動を含め、一大学として 3 案件も採択されるという快挙を成し遂げられました。

学生食堂で教職員に囲まれて昼食をとられることも多く拝見しました。常に彼ら／彼女らのアイデアを汲み取り、激励されるお姿が懐かしく思い出されます。このお人柄やご姿勢が小規模大学の運営においてハンディキャップをチャンスに変えていかれた原動力になっていたと思います。

「九条科学者の会」呼びかけ人のお一人としてもご活躍され、「戦争をしない平和な国から憲法九条を改悪して戦争のできる国への道を歩むことは絶対許せません。」とのメッセージを発せられました。象徴的な活動として 2005 年に神奈川県民ホールで開かれた『九条の会』をきく県民のつどい」では、満席となった 5,000 名以上のご参加者の前で、先生が熱っぽく開会のご挨拶をなさいました。その後も「九条かながわの会」の発足、活動にご注力されました。

フェリスを 77 歳で去られた後も、郷里の佐渡島に開設された「伝統文化と環境福祉の専門学校」に校長として 10 年余り赴任され、地元の振興と後進の育成のために献身的にご奔走なさいました。

いつも朗らかな笑顔でどんな人にも対等に接してくださり、懐の深さと人間力の高さにいつも敬服いたしておりました。私にとって人生のお手本のような方でした。しばしば先生のおっしゃっていた「ニコニコ外交」というモットーを改めて胸に刻み、コロナ禍やウクライナ危機の続く混沌とした時代を乗り越えていきたいところです。ご遺志をみんなで引き継いで、明るく、力強く環境・社会貢献活動을続けて参ることが本間先生へのイチバンの供養になるものと拝察いたしております。

コロナ禍によってエコキャンパス活動 20 周年の会もなかなか開けず、フェリスの卒業生たちと集まれなかったことが今でも悔やまれます。本間先生、さようなら！ お世話になりました。本当にありがとうございました。「お仕事が趣味だ」とおっしゃっていた先生には、引退という言葉はございませんでした。天国では安らかにお休みくださればと心から祈っております。

第 2 回関東甲信越地区会議 (2022/12/22)：中野貞彦氏の報告から

支部事務局長 飯岡ひろし

JSA から、24 総学の 20 近い分科会に参加した。のべ参加者は 1400 人を超え、非会員は 200 人、会員拡大にとりくみましょう。一人メールで入会申込みがあったとの報告があった。

神奈川からは「大学が多く、班があったが、今は活動していない。HP を作ったり、『支部つうしん』に執筆してもらったりして、交流できるようにしている。今年、支部交流会で萩原さんと新入会員に話をしてもらおう。地方自治などの政策にも役立つ呼びかけ議員に入ってもらった。現勢は何とか維持しているが、退職者多いのでなかなか難しい。支部間の交流では、専修大学、明治大学、東海大など多くの大学が神奈川にあるが、東京支部に属してどなたがいるのかわからない。繋がりをもちたいと思っている。24 総学の参加者には、HP からか、支部で知らない人がいるので、分かれば働きかけたい」と発言した。

関東甲信越の支部から〇24 総学を会員拡大にどうつなげるか議論している。事務局ニュースで大きな後退の記事。安保 3 文書でいよいよ本腰を入れて大軍拡に乗り出した情勢、踏ん張り

時○24 総学に埼玉から 19 人参加、会員でない方をつかんで働きかける。JSA の新しいパンフ（「JSA はこんな学会です」「入会案内リーフレット」）は敷居が高い、もっと親しみ易いものにならないか。「学者・研究者」というだけで引いてしまう○新入会者は、「新春のつどい」に参加してもらい話題提供してもらい、お互いに親交を深めるようにしている。近接支部間の交流を密接にということを考えてとき、研究分野が近い人がいるか、それができるような支部の人数がある。活性化していくために隣と合併するなどの時期ではないか○茨城と栃木は隣同士だが、交流するには遠すぎる。オンラインの活用でカバーできるのではないか。半分が個人会員、企画など投げかけても反応がない。支部ニュースが困難になりつつある。支部の相互乗り入れ、情報交流をやりたい○24 総学に参加、充実した内容だった、それぞれの議論を通年で継続していけばと思う。サイエンスカフェを 9 月、12 月に行った、宇宙の話、参加者ごく少数で、次回は 2 月、継続したい。弱体化した支部をまとめる案として、東京圏（支部）の千葉班など…○理研の雇い止めの問題、国立大学や国立機関(独立法人)等を含めた 2023 年 3 月での雇止め予定者数が 4500 人、学術会議の声明も出たが、理研の 40～50 の研究室が閉鎖される。解雇者の救済の問題としてだけでなく、日本の研究の独自性が失われる、何が失われるかという議論が要る。JSA としてももう少し取り組めないか？全国幹事会に理研関係者を招いて話し合いをもてないか。

研究者・非常勤講師の大量雇い止め回避のための会議（資料）

飯岡ひろし

地区会議で話題となった理化学研究所の雇い止め問題はいま重要な局面になっています。支援の団体には全労連、JSA などが参加し、「理化学研究所は約 400 人の研究系職員の雇止めをやめてください！ 不当な雇用上限を直ちに撤廃してください」署名などの行動をしています。署名は 1 月 12 日、23,000 人近くとなっていますが、一層の広がりが求められています。署名はオンラインで、検索してください。昨年、12 月に開かれた会議での発言を紹介します。

○2011 年理研入所、2016 年 10 年ルール
の就業規則制定で 2013 年に遡及適用、400
人が対象。2016 年以前はプロジェクト終了
までの雇用で期限なし。自分の科研費プロ
ジェクトが 2025 年まで継続するが、2023
年で解雇通告、裁判提訴中。公的研究期間
である理研でこんな理不尽な政策は許せない、黙ってはいられないという思いで裁判○



東海大、組合員の 95%が 2023 年 3 月で雇い止め、大学は非常勤が連帯できないとなめている。ストライキ実施で連帯を示した。非常勤講師は研究者でないことを確認し主張する必要（5 年ルール適用を主張すること）。勤務が長いほど交渉・裁判では有利、文科省通知を活用する事は効果的。世間が注目していると大学に圧力○大阪大学、大阪労連の協力でビラ・街頭宣伝などを実施。阪大 10 年問題は学校教育法違反(個人事業主との大学と共産党・宮本議員の国会質問)。

大学・研究機関の非正規問題を一般の人たちに中身がわかるように、業界用語を使わないでわかりやすく広く伝えて支持・共感を得ることが重要○東大、研究チームの半数弱が3月で解雇予定、大学はコスト論。予算のある部局で、雇用が継続している模様○東大、過去に首都圏組合と交渉して5年ルールを撤回させた。世論にも大きく訴えた成果で、全国に波及○理研、NEDO研究開発責任者として2024年までプロジェクトが継続、資金も延長。理研は2年限りの雇用延長を提案してきたが、雇い止め方針をやめる気はない○理研、理研問題を記者会見などで世論に訴えた結果、新人事制度を公表、しかし内容はまやかしと先延ばしで中身がない○日本の学術政策・高等教育政策に関わる課題であるから、JSAとしての役割がここにあると痛感した。

第53期第3回幹事会の概要

JSA総務財政部長 増澤誠一

58期第3回幹事会がオンラインで、12月25日（日）に開かれました。幹事26人中24人（代理出席含む）が出席しました（詳細は、HPの会員ページの議事要録参照、神奈川から後藤が参加）。

10時から開催された幹事会は、開会挨拶を大竹美登利代表幹事から受けました（挨拶全文は後掲）。その後、議長に山本さん（福井）、平野さん（北海道）、書記に西原さん（鹿児島）、葛谷さん（院生）を選出しました。議事日程案が中嶋事務局長より提案され、了解されました。以下、議事。

1. 定例の事務局報告（増澤総務財政部長）

第2回幹事会以降の事務局日誌、会員数と会費納入状況（11月末現在）、月別収支状況が報告されました。会員数は減少傾向が続いていること、会費納入状況は、大会時より改善が見られる支部もある一方、遅滞が変わらずの支部もあることが報告されました。12月はボーナス時期でもあり、遅滞の支部には督促しているとのことでした。収支報告については、毎月200万円前後の会費入金があり、順調にしているとのことでした。

2. 各専門部からの活動報告

1) 社会的活動部報告（三木部長） 部会を毎月開催（オンライン）し、担当全国幹事にも参加いただいている。また、主要部分の報告はその都度、全国幹事にSlackを通じて報告している、と報告されました。

2) 学術体制部報告（多羅尾部長） 科学・技術政策の現状として、経済安全保障、安全保障関連3文書の閣議決定、内閣府が「学術会議の在り方についての方針」を公表（12月6日）、大学ファンド・国際卓越研究大学、任期付き研究者・非常勤講師雇い止め問題等の報告があり、学術体制部会（12月19日）で確認した科学・技術政策委員会、科学者の権利問題委員会、大学問題委員会、国公立試験研究機関問題委員会、民間技術者・研究者問題委員会、若手研究者問題委員会、女性研究者技術者委員会の各問題別委員会の取組みの報告、学術シンポジウム（5月予定）、学術会議会員任命拒否問題の署名の報告がなされました。380筆集まった学術会議の署名については、人数と公表可のメッセージを、名前を伏せてJSAのサイトに掲載すると報告されました。

3) 研究企画部報告（河野部長） ・24総学についての概括的報告、10の研究委員会活動についての報告、研究助成について23年度応募状況や21年度完了報告書の扱い、JSAバーチャル大学

院WG の検討状況について報告がなされました。また、全国9地区のうち5地区でシンポジウムが開催されたと報告されました。

・原子力問題研究委員会（山本委員）から、「大阪地裁による美浜原発3号機の運転差止を求める申し立てが却下されたことは不当であり、ゆるされない」とする抗議声明が紹介されました。

4) 国際部報告（小野部長） Bulletinの定期発行状況とその内容紹介が行われました。「科学者つうしん」の英訳（校正）を執筆者に呼びかけ、毎回数名の協力を得て、国際活動の充実に繋がる今期の活動の特徴につき、報告されました。24総学には国際部として分科会を開催した報告がなされました。

5) 組織部報告（山崎部長） 第2回幹事会以降の組織部の課題（会員名簿の取扱い、困難支部の現状等）が報告され、会員名簿の管理に関する「申し合わせ（案）」（1月15日までに幹事の意見を募る）などが提案されました。また、24総学で広まったJSAの知名度を生かした会員拡大が呼びかけられるとともに、今後支部事務局長等交流会を計画し、楽しく経験交流をしていきたいとの呼びかけがありました。

6) 『日本の科学者』（長野編集委員長） 59期の編集委員の募集が提案され、『日本の科学者』をより魅力的な雑誌にするよう、呼びかけが行われました。

7) 総務財政部（増澤部長） ・事務所移転計画について、2022年度～2024年度毎の計画案と留意事項が報告されました。

・本の泉社との『日本の科学者』誌の発行に関する契約内容について、報告がなされました。

3.24 総学（畑委員長）

11月19日～12月11日の3週間にわたり開催したことにより、参加者が増え延べ1400人を超えたこと、募金も133件、41万円を超えたことが報告され、参加者の分科会の分布等の分析結果の詳細が報告された。

4. 審議事項

1) 日本学術会議法改正の動きについて 中嶋事務局長原案の「日本学術会議法改正に反対し、政府の自己改革を求める」決議案は、審議の上、出席幹事の過半数の賛成により、起草委員会に諮問されました。

2) 安保3 文書の閣議決定について 岸田内閣が閣議決定した安保3文書については、平和問題研究委員会提案の「憲法違反の新安全保障戦略3文書の閣議決定に抗議するーこの平和への危機に立ち上がろう」決議案は、審議の上、出席幹事の過半数の賛成により、起草委員会に諮問されました。

3) ウクライナ戦争について 宮城支部・嶋田一郎会員他2人の提案による「武器を捨て直ちに交渉開始を！ー人道的即時停戦を訴えます」については、審議の上、出席幹事の過半数の反対があり、起草委員会には諮問されないこととなりました。

＜出された主な意見＞

・「ロシアに撤兵を求める」ということは多くの人が共通に願うところであり、一日も早く戦闘を集結させるべきだという考えには共感できる。

・戦争を起こしたのはロシアであり、ロシアが侵略をやめなければならない。

・声明案中の「この停戦は人道（人の命と生活を守る）のための停戦であり、停戦時の政治的軍事的状況（実効支配など）を認めるものではなく、固定化するものでもありません。」という見解について、本文中にその論拠が明示されていないため、その科学的妥当性が判断できな

い。

・同様に、「人道的即時停戦の提案が、国連安保理事会に諮られるべきものと考えます。ロシアが提案に賛同する可能性があるのです」についても、論拠が示されておらず、説得力に欠ける。

4) 第54回定期大会の案内について 審議の上、[第1日] 5月27日(土) 10時～17時、[第2日] 6月11日(日) 10時～17時とし、Zoom Meetingによるオンライン開催とすることを確認しました。

5) 研究助成委員について 研究企画部提案のとおり、10人の委員が承認されました。

6) その他 ・理研などの研究職大量雇止め問題への対応に関連して意見交換し、日本の学術体制としてどうあるべきかの視点で、科学者の権利や大学の予算とも関連させて、問題別委員会にJSA としての対応を諮問することとなりました。

なお、閉会にあたり、立石雅昭代表幹事から挨拶がありました。

開会の挨拶：大竹美登利（代表幹事）

開会にあたりまして、大竹より、一言ご挨拶申し上げます。本年度は、大阪大学を主会場に、さらにオンラインで全国をつないだハイブリッド方式で、第24回総合学術研究集会が、11月19日(土)～12月11日(日)に開催されました。全体会3セッション、32の分科会が開催され、参加登録者629人、延べ参加者は1,419人と、多数の参加者を得、熱い議論が交わされ、成功裏の内に終わることができました。総学の運営にあたりました大阪支部を中心とする実行委員の皆様のご尽力のおかげと、心より感謝申し上げます。

新型コロナ感染に伴い、23総学からオンラインによる開催が始まり、委員会活動もオンラインによる開催が日常となりました。一つの会場に集まっての討議ができなくなり、リアルな対面とはちがった討議が展開されるようになりました。時間的、経済的負担が軽減されるオンラインでの会合の良さを生かして、多数の参加者が集い協議できる機会が生み出され、新たな会合の可能性を獲得しました。対面とオンラインの良さを活用した、さらなる協議の発展を、今後とも期待したいと思います。

さて、2022年2月24日にロシアのウクライナへの軍事侵攻が始まり、世界は混乱を極めています。新型コロナウイルス感染も含め、地球規模の環境悪化は、世界の人々が協力して取り組まなければ解決できない問題ですが、現在は戦争の混乱を止めることが先決で、環境問題解決は二の次になりつつあります。

こうした混乱に乗じて、岸田政権は、国会での十分な政策論議をせずに、軍事費増強、原子力発電の再稼働・新設など、戦後政策の大転換を矢継ぎ早に打ち出しています。こうした中で、JSAによる歴史的観点に基づいた科学的分析や、地球温暖化の解決への分析の重要性が一層問われています。

本日の幹事会では、これらに対応した科学者の重要な役割を示せる実りある協議が展開されることを期待いたします。以上、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

閉会の挨拶：立石雅昭（代表幹事）

今日一日、幹事のみなさん、代表幹事のみなさん、とりわけ事務局のみなさん、本当にご苦労様でした。日本の国民を巡る様々な状況の中で、とりわけ科学者・技術者が果たさなければならない役割は一層大きくなっている中、組織的に様々な面から困難が生じている。とりわけ

科学者会議の組織的な状況は、大変な努力をされている方々が多いと思うが、やはり一つ一つの職場・現場での会員の拡大が重要な時期になっていると思う。軍備の問題、新型コロナウイルス感染症の問題、教育の問題、多様な面で国民が大変な状況に置かれているそのことを改めて確認し、その中で私たち科学者がどういう役割を果たしていくのか。現実的には、研究者の多忙な状況の中という大変な状況に置かれているが、今日本が岐路に立っている中で、幹事が一丸として次の総会を迎えるためにお互いに努力をしながら新しい年を迎えていきたいと思う。本当に今日のご苦勞様でした。

(日本科学者会議事務局ニュース58-8号 2023. 1. より)

行事案内

- ☆1月19日 (木) 15:00～17:00 **詩吟の会** 会場：かながわ県民サポートセンター707号室(横浜駅西口徒歩5分) 見学歓迎 主催：日中友好協会神奈川県連合会 問合せ：045-843-3435 (菅野さん)
- ☆1月19日 (木) 17:00～ **院内集会 戦争は回避しなければならない** 共催：立憲フォーラム・戦争をさせない1000人委員会 会場：衆議院第二議員会館 1階多目的会議室 講師：猿田佐世さん(弁護士/ND代表) 無料です。どなたも参加できます。18時30分からの議員会館前抗議行動にも、ご参加ください。
- ☆1月19日 (木) 18:30～ **1・19国会議員会館前行動** 場所：衆議院第2議員会館前を中心に フィジカルディスタンスを確保しながらスタンディング できるだけ各自のプラカード持参を 共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会/9条改憲NO！全国市民アクション
- ☆1月20日 (金) 19:00～ **「オンライン学習会かわさき」主催 伊波洋一さん講演会** 参加無料 視聴希望の方は、次の URL から登録をお願いします。 https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_3QRBDn1ZTquD0AgbVhyQQw 講師：伊波洋一さん(参議院議員) 演題：「防衛3文書改定による敵基地攻撃能力の大軍拡の危険性」 伊波さんには、2020年11月8日(日)に、「『敵基地攻撃論と沖縄』～再び戦場の島とさせないために」と題して講演していただいています。今回の講演は、この講演の続きです。前回の講演記録はYouTubeにアップされており、次の URL よりご覧いただけます。 <https://youtu.be/5G8rPoDkTRY>
- ☆1月21日 (土) 13:00～ **横須賀から見える“軍拡”の実態と「安保3文書」** 会場：産業交流プラザ第一研修室(京急汐入駅徒歩3分) 資料代500円 講演：吉田敏浩(ジャーナリスト)「安保3文書」はこの国をどう変えようとしているのか 報告：新倉裕史(非核市民宣言運動・ヨコスカ/ヨコスカ平和船団)先制攻撃の街・横須賀から見える“軍拡”の実態 主催：ヨコスカ平和船団/非核市民宣言運動・ヨコスカ(046-825-0157)
- ☆1月21日 (土) 13:30～14:30 **スタンディング・デモ 大軍拡でなく生活・物価対策を** 場所：桜木町駅前南改札東口(降雨時は野毛地下道入り口付近) 主催：憲法共同センター 問合せ：045-212-5855 (神奈川県労連)
- ☆1月21日 (土) 13:30～16:30 **ヒロシマ講座：「それぞれのシベリア抑留体験を語る～97歳と96歳の対話～** 新関省二さん(96歳、レニンスク・ナホトカなどの収容所に4年間抑留 神奈川県横浜市在住)、西倉勝さん(97歳、コムソモリスク収容所に3年間抑留 神奈川県相模原市在住) 会場：新宿区男女共同参画推進センター(地下鉄曙橋駅徒歩3分) 参加費(資料代)：1000円 資料準備がありますから、必ず事前の申し込みをお願いします。申込先：qq2g2vdd@vanilla.ocn.ne.jp (竹内) 企画：ヒロシマ講座
- ☆1月21日 (土) 14:00～16:00 **JCJオンライン講演会 タリバン政権の現状と故中村哲氏のレガシー アフガン取材報告** 講師：高世 仁さん(ジャーナリスト) 参加費500円 参加申込み：ネットのPeatixで参加費を支払い下さい。①<https://houkoku.peatix.com/> をクリック、②参加券を求める、③支払いをカードかコンビニ払いかにするかなどを選ぶ、④初めての方は途中、氏名、メールアドレスを入力し、独自のパスワードを設定する、⑤支払いを済ませた方に講演前日までにzoomのurlをメールします。主催：日本ジャーナリスト会議 問合せ：03-6272-9781
- ☆1月21日 (土) 14:00～ **第27回市民連合全国意見交換会** オンライン開催 内容：1 市民連合運営委員会挨拶、2 現在の情勢について事務局からの提起、3 全国からの報告 参加申込：参加希望者は1月18日(水)までに、発言希望の有無を連絡願います。団体から複数可です。ZOOMURLを送ります。発言希望が多い場合は、事務局で調整します。YouTubeのアドレスを送ります。次をクリックすると入力フォームが出てきます。指示に従い入力し、送信してください。 <https://forms.gle/KNdhd79iqWHnJE2TA> また、メールでお送りいただく場合は、参加団体名、都道府県、参加者代表者名・発言希望者名、メールアドレス、電話番号、発言希望の有無、Youtube配信リンク送付の希望、その他ご要望など。市民連合事務局：竹内、菊地 連絡先：TEL. 03-5289-8222 (平和フォーラム)、携帯 090-4437-2175 (菊地) 安保法

制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合：mail: shiminrengo@gmail.com

- ☆1月22日(日) 受付13:15分、開会13:30 **第18回新社会党新春講演会** 会場：横浜市技能文化会館802会議室(JR関内駅徒歩5分) テーマ：ウクライナ戦争と新自由主義経済の行き詰まり 講師：孫崎 亨さん(元外交官・政治学者) 資料代800円 連絡先・吉田 (090-2542-0413)
- ☆1月22日(日) 13:45～16:00 **第4回「表現の自由を考える」市民の集い** 会場：勤労市民会館6階A研修室(JR茅ヶ崎駅徒歩5分) 講演：武内暁(表現の自由を市民の手に全国ネット世話人代表)「市民の声、行動、行政と実践の関わり」トークイン：松本武顕(ドキュメンタリー映画監督)「今こそ市民の手に表現の自由を！」主催：沈黙しない茅ヶ崎市民ネットワーク 問合せ：090-5408-4041(山本さん)
- ☆1月22日(日) 14:00～16:00 **学校どうしちゃったの？シンポジウム** zoom開催 次のフォームから申込み：<https://forms.gle/pEoApxfrqJ35fbHK8> 提起：藤森毅(日本共産党中央委員会文教委員会責任者) 発言：中学校教員、保護者、日本共産党県議、市議など 主催：日本共産党神奈川県委員会 問合せ：045-432-2101
- ☆1月22日(日) 14:00～16:30 **「福島を忘れない！」おしどりマコ&ケンの報道されない原発問題の今！** 会場：瀬谷区民文化センターあじさいプラザ(相鉄線瀬谷駅徒歩1分) 先着100人 主催：さよなら原発INせや 申込み：sugi808@infoseek.jp 問合せ：090-2429-3033(菊谷さん)
- ☆1月23日(月) 12:00～ **軍拡やめろ！軍事費増やすな！増税反対！改憲発議反対！辺野古新基地建設中止！統一協会癒着徹底追及！いのちと暮らしを守れ！1・23国会開会日行動** 場所：衆議院第2議員会館前を中心に 共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会／9条改憲NO！全国市民アクション
- ☆1月24日(火) 18:15～20:30(予約必要) 広瀬隆講演会「気候変動の宇宙物理学：IPCCのCO2温暖化説は本当か」(前半) 講師：広瀬隆さん 会場：全水道会館4F大会議室 <https://www.mizujoho.com/> 資料代：1回参加1,000円(2回通し参加1,600円) 定員：160名＝予約必要 電話かメールでお申し込み下さい 主催：たんぼぼ舎(東京都千代田区神田三崎町3-1-1 高橋セーフビル1F tel. 03-3238-9035 fax. 03-3238-0797 Email: tanpopo3238@yahoo.co.jp)
- ☆1月27日(金) 17:00～19:00 **『ヨコハマ市民自治を考える会』の定例会** 会場：かながわ県民センター711号室、市民自治に関心のある方はご参加を。連絡先：Eメールkura335200@star.ocn.ne.jp 参加費300円
- ☆1月28日(土) 13:30～16:30 **2023年特別連続講座 虐殺100年の現在地 ～歩いて考える関東大震災～ 講座 関東大震災朝鮮人虐殺は「混乱の中」で 第1回 起こったのか？～虐殺の実態と言説から考える～** お話：田中正敬さん[全3回予定](専修大学教授・関東大震災朝鮮人虐殺の国家責任を問う会事務局長) 会場：新宿区男女共同参画推進センター(地下鉄曙橋駅徒歩5分) 資料準備がありますので、事前申し込みをお願いします。名前・アドレス・電話番号」をお知らせください。申込先：qq2g2vdd@vanilla.ocn.ne.jp 参加費(資料代)1000円 企画：「ヒロシマ講座」(竹内)
- ☆1月28日(土) 14:00～ **税金は軍事費ではなく暮らしに！女たちはすべての軍事行動に反対します** 場所：新宿駅 東南口 主催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会 性差別撤廃Project Team
- ☆1月28日(土) 15:30～17:30 **1月例会 図書館の自由について** 会場：港南台地区センター中会議室(港南台駅徒歩10分) お話：伊沢ユキエさん(日本図書館協会図書館の自由委員会、港南台在住) 主催：港南台9条の会 問合せ：045-832-8070(成田さん)
- ☆1月28日(土) 16:30～18:30 **講演会：東アジアで戦争を呼ぶのは誰か 中国包囲網・琉球弧での日米戦争計画** 会場：かながわ県民センター301(定員90名、横浜駅西口徒歩5分) 講師：高井弘之さん(「ノーモア沖縄戦・えひめの会」) 資料代800円(学生無料) 連絡先：070-6481-4362 共催：ストップ秘密保護法かながわ、共同行動のためのかながわアクション
- ☆1月28日(土) 17:00～18:00 **国政報告・立憲民主党の早稲田ゆき衆院議員との意見交換会** 会場：鎌倉生涯学習センター・第5集会室(鎌倉駅東口徒歩5分) 国政報告：立憲民主党・早稲田ゆき衆院議員 内容：「敵基地攻撃能力(反撃能力)の保有は認められない」等国政に関する報告について・質疑応答 主催：神奈川県4区市民連合 連絡先：080-5035-7167(小堀さん)
- ☆1月28日(土) 18:00～20:30 **講演会 金平茂紀が語る政治とメディアのタブー** 会場：鎌倉生涯学習センターホール(鎌倉駅東口徒歩5分) 入場料700円 20歳以下無料 申込み：mail kamakura9jo@gmail.com 氏名、電話、予約枚数記入 fax0467-60-5410 氏名、電話、fax番号、予約枚数を記入 受付後、返信メールまたはFaxを送ります。店頭：島森書店、たらば書房 問合せ：0467-24-6596 主催：鎌倉・九条の会
- ☆1月29日(日) ①10:30～12:15、②14:00～15:45 **映画「ボケますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～」(監督：信友直子)上映会** 会場：横浜市社会福祉センターホール4階(JR桜木町駅徒歩1分) 参加費：当日のみ 大人・学生1000円、小中学生800円 マスク着用のこと 各回先着300名 主催：上映実行委員会 問合せ：03-3758-8622
- ☆1月29日(日) 13:30～16:00 **新春平和学校** 会場：かながわ県民センターホール(横浜駅徒歩5分) 資料代1000円 記念講演：2023年を憲法が花開く年に「憲法は私たちに渡された希望のバトン」 講師：白神優理子(弁護士) 特別報告：戦車阻止闘争50周年について 丸利一代表委員、菅沼幹夫事務局長 主

催：神奈川県平和委員会 問合せ：045-231-0103

☆1月29日（日）13:30～16:30 **介護保険のいまと未来を考えるつどい** 会場：建設プラザかながわ2階ホール（東神奈川駅徒歩5分） zoom視聴あり 講演：花俣ふみ代（認知症のひとと家族の会常任理事）「許せない!!介護保険制度改定の動向と問題点」 23日までに申し込み 主催：実行委員会 問合せ：045-201-3900（県社会保障推進協議会）

☆1月29日（日）13:50～ **渡辺治さん市民講演会 軍拡と改憲で日本とアジアは平和になるのか？－憲法9条の力を考える** 講師：渡辺 治さん（一橋大学名誉教授・政治学者） 会場：横浜市金沢産業振興センターホール（シーサイドライン「産業振興センター駅」下車1分） 参加費800円（出来るだけ前売り券乃至電話予約でお願いします） 主催：憲法改悪を許さない金沢アクション実行委員会 連絡先：黒岩（090-5991-9312）、丸茂（090-1509-4843）

☆1月30日（月）18:00～21:00 **オルタナティブな日本をめざして（第81回）：「リニア新幹線は実現可能か？」**（樫田秀樹さん：新ちよぼゼミ） 講師：樫田秀樹さん（フリージャーナリスト） 会場：スペースたんぽぽ（高橋セーフビル1階、JR水道橋駅西口5分） 参加費（資料代含む）：800円（学生400円） 予約の受付：たんぽぽ舎（水道橋）：TEL 03-3238-9035 に電話していただき「受付番号」をもらってください。

☆2月1日（水）～6日（月）10:00～17:00（最終日は15時まで） **山上敏夫 世界のSL写真展 モノクロで表現した世界のSLと沿線に暮らす人々、郷愁の原風景** 会場：戸塚区民センターさくらプラザ・ギャラリー（戸塚駅徒歩2分） 入場無料 主催：山上敏夫後援会 問合せ：045-826-1254（18時以降、横井）

☆2月4日（土）13:30～15:50 **「自衛官募集問題」を市民に広げ、個人情報への厳守を市に要請しよう！ 学習と交流の集い** 会場：相模原市民会館2階2号大会議室 講演：自衛官のいじめ問題から見える自衛隊の実態 講師：木元茂夫さん（NPO 法人「ピースデポ」理事、DVD 作品に『たちかぜ裁判の歩み』など）、柴田豊勝さん（防衛大学校自衛官いじめ裁判を支援する会事務局長）、報告・学習・交流、署名など行動の呼びかけ・お願い・連絡など 主催：自衛官募集個人情報提供問題を考える会 連絡先：竹腰（090-3008-3945）、小倉（090-6009-3978）

☆2月4日（土）14:00～16:00 **JCJオンライン講演会 ロシアのウクライナ侵略と日本の安全保障 敵基地攻撃と軍事費大幅増の危う** 講師：額田 厚さん（明治大学国際武器移転史研究所客員研究員） 参加費500円 参加申込み：ネットのPeatixで参加費を支払い下さい。①<https://houkoku.peatix.com/> をクリック、②参加券を求める、③支払いをカードかコンビニ払いにするかなどを選ぶ、④初めての方は途中、氏名、メールアドレスを入力し、独自のパスワードを設定する、⑤支払いを済ませた方に講演前日までにzoomのurlをメールします。JCJ会員は参加費無料、onlinejc@gmail.comにメールで参加申込みを。主催：日本ジャーナリスト会議 問合せ：03-6272-9781

☆2月4日（土）18:15開場、18:30開会 **第85回平和憲法を守る会～「紀元節」＝復活＝「建国記念の日」に反対し、今、改めて「皇民」化教育を問う～『戦争は教室から始まる「元軍国少女」北村小夜が語る』 神奈川県民集会** 会場：かながわ県民サポートセンター604（横浜駅西口徒歩5分） 講師：北村小夜（元教員） 資料代500円 主催：かながわ平和憲法を守る会 連絡先：090-1105-6980（瀬川）、090-2542-0413（吉田）

☆2月5日（日）13:30～16:50 **東京教育集会2023 憲法を守り生かし、平和と民主主義、子どもの権利を保障する教育を、取り戻そう！** 会場：全国教育文化会館7階（地下鉄有楽町線麹町駅徒歩2分） オンライン併用 集会賛同金：個人500円、団体2000円 郵便振替口座 0110-2-333678 加入者名：東京教育集会実行委員会 講演：日暮かをるさん「七生の性教育攻撃とは何だったのか！失ったものと勝ち得たもの」リレートーク：○18歳成人。「三者協議会」を通して社会とつながる高校生 ○特別支援教育。つづく教室の過密。○教職員不足と教育へのしわ寄せ。○「日の丸・君が代」裁判5次訴訟・原告の思い。○つづく教科書への政治介入と今年の小学校採択。○8年目を迎えた夜間定時制存続運動。○画期的な「東京都子ども基本条例」を学ぶ－朝鮮学校へ通う子どもたちへの東京都補助金復活のために。○保育料無償化と就学前教育への政府の介入。○英語スピーキングテストの問題点と運動の成果。○保護者からみた学校申込み・問合せ：次のフォームから申し込んでください。<https://forms.gle/eBuGph1tzHmMHgWQ7> 主催：実行委員会（03-3230-4091）

☆2月5日（日）14:00～15:30 **4月統一地方選挙へ 日本共産党の躍進で地方からジェンダー平等を実現しよう オンライン女性のつどい** 講演：高阪由紀江さん（『議会と自治体』編集部） 挨拶：浅賀由香副委員長 主催：日本共産党神奈川県女性後援会（045-324-6030） 日本共産党神奈川県委員会のHPから視聴できます。

☆2月9日（木）14:00～16:30 **全国革新懇シンポジウム「戦争準備の大軍拡はやめろ、平和をつくり暮らしを守る政治へ」** 会場：衆議院第二議員会館「多目的会議室」3 パネラー 小林節：憲法からみた「安保3文書」、額田厚：東アジアの歴史をふまえた日本の安全保障、佐々木憲昭：日本の経済、財政状況と大軍拡、山添拓：日本共産党の外交戦略 コーディネーター：小畑雅子 開催方式：ハイブリッド形式 YouTubeでの同時配信を予定します。時間になりましたら、全国革新懇のホームページからお入りくださ

い。主催：全国革新懇

☆2月11日（土、休）12:50～ 「建国記念の日」に反対する2.11神奈川県民のつどい「憲法と教育」の今日的課題～人権・平和・民主主義の守り手は～ 講師：前川喜平さん（元文部科学事務次官） 会場：かながわ県民センター2階ホール（横浜駅西口下車徒歩5分） 資料代500円（高校生以下は無料） 感染防止のため、当日はマスク着用・検温・手指消毒にご協力ください。主催：2.11神奈川県民のつどい実行委員会 連絡先：神奈川労連（担当・住谷、045-212-5855）

☆2月11日（土、休）13:30～ 増本一彦さんを偲び、新たな出発の集い 会場：神商連会館4階ホール（東神奈川駅西口徒歩5分） 会費1000円 主催：実行委員会 連絡先：080-5931-8179（斉田さん）

☆2月11日（土、休）13:30～ 歴史に学び軍拡・改憲を許さず平和な世界と日本へ 2023年2.11集会 会場：ラパスホール（東京労働会館7階、JR大塚駅徒歩10分） 参加費700円 25歳以下300円 高校生以下無料 伊波洋一（参議院議員）「改憲・軍拡反対の声を大きく－沖縄・南西諸島の状況と台湾有事の日米共同作戦の危険性、新井勝紘（元専修大学教授）「関東大震災朝鮮人虐殺100年と日本社会」 リレートーク：国際卓越研究大学問題と学問の自由の危機、核兵器と戦争のない世界をめざして－私たちは学び、声をあげる、学生ユニオンの活動について 主催：「建国記念の日」に反対し思想・信教の自由を守る連絡会（歴史教育者協議会、03-3945-5701）

☆2月11日（土、休）16:00～17:30 国政・市政報告会 衆議院議員・早稲田ゆき、横浜市議員・長谷川えつこ 会場：あーすぷらざ5階映像ホール（定員100名、本郷台駅徒歩3分） 入場料1000円（資料代） 主催：早稲田ゆき事務所 連絡先：0467-24-0573

☆2月18日（土）改憲させない県内街頭宣伝行動 10:30～11:30 場所：鎌倉駅、12:30～13:30 場所：逗子駅 主催：戦争させないかながわの会

☆2月18日（土）13:00～13:40 JSA神奈川支部幹事会と発送作業 会場：横浜市中区不老町1-6-9 第一HBビル5階B かながわ総研の新事務所 現在の事務所のある不二ビルの交差点をはさんだ対面のビルの5階です（JR関内駅南口から徒歩3分、右の地図参照）。連絡先：飯岡ひろし（携帯：090-1557-9941）



☆2月18日（土）14:00～17:00 JSA神奈川支部2023年研究交流会 会場：かながわ労働プラザ4F・11号会議室横浜市寿町1-4、045-633-5413 交通：JR石川駅中華街口（北口）徒歩3分、地下鉄伊勢佐木長者町駅出口2徒歩12分 終了後、有志で新年会の予定 連絡先：飯岡ひろし（携帯：090-1557-9941、iioka408(at)gmail.com）

☆2月22日（水）18:30～ 2023年講演会 2023年統一地方選に向け杉並の取り組みに学ぶ民主主義と地方自治の再生へ 会場：中原市民館多目的ホール（武蔵小杉駅徒歩3分） 講師：内田聖子さん（NPO法人アジア太平洋資料センター共同代表） 報告：大阪維新の会による政治破壊の実態 愛須勝也弁護士（京橋共同法律事務所） 参加費無料 申込不要 主催：川崎合同法律事務所 連絡先：044-211-0121

☆2月23日（木・祝）13:30～ 第3回山中市政を進める市民の集い 山中市政と市予算・市議会などの学習会 会場：横浜市従会館4階ホール（JR・地下鉄桜木町駅下車） 内容：1）講演「国の予算と地方政治について」川瀬憲子（静岡大学教授）、2）報告「市予算案について」「市議会の状況は」など 資料代500円 主催：市民の市長をつくる会（電話・FAX. 045-650-1896） 山中市長は中期計画の可決を受けて2023年度予算案を1月下旬に発表する予定です。選挙戦での公約や市民生活の改善などが望まれています。

☆2月24日（金）18:15～20:30（予約必要）広瀬隆講演会「気候変動の宇宙物理学：IPCCのCO2温暖化説は本当か」（後半） 講師：広瀬隆さん 会場：全水道会館4F大会議室 <https://www.mizujoho.com/> 資料代：1回参加1,000円（2回通し参加1,600円） 定員：160名＝予約必要 電話かメールでお申し込み下さい 主催：たんぽぽ舎（東京都千代田区神田三崎町3-1-1 高橋セーフビル1F tel. 03-3238-9035 fax. 03-3238-0797 Email: tanpopo3238@yahoo.co.jp）

☆2月26日（日）13:30～17:00 第58回教科書を考えるシンポジウム 小学校英語の教科化2年を過ぎて－英語教育はいま 会場：エデュカス東京5階B会議室（地下鉄有楽町線麴町駅徒歩2分） zoom併用 協力金800円 報告：小学校の現場から 高瀬翔太さん（新英語教育研究会）、中学校の現場から 高草木直子さん（新英語教育研究会） 申込み：2月22日までに①会場参加かzoom参加か、②名前、③連絡先（メールアドレスと電話番号）、④住所をメールかFaxで連絡下さい。Zoom参加者は協力金を次に振り込みください。郵便振替口座：00160-5-32242 名義：子どもと教科書全国ネット21 連絡先：子どもと教科書全国ネット21（電話：03-3265-7606、Fax：03-3239-8590、メール：ukyokasho21@a.email.ne.jp）

次号の原稿の募集：近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月10日ごろの締め切り、15日ごろ発送です。

送り先：後藤仁敏（E-mail：goto(at)kd5.so-net.ne.jp、Fax：045-894-1052）